平成28年度　沖縄県総合教育センター特別支援教育班　後期長期研修員　第２回検証授業

「ＬＨＲ」学習指導案

学校名：沖縄県立南部商業高等学校

対　象：１年４組　３２名

日　時：平成29年１月25日(水)

６校時（14:25～15:35）

　 場　所：C棟３階　１年

授業者：教　　諭　知念　毅

　　　　教　　諭　砂辺　孝彦

指導者：指導主事　川満　恵

Ⅰ　研究テーマ

高等学校における自己肯定感を高める支援の在り方

―応用行動分析を用いた学級経営を通して―

Ⅱ　研究仮説

　１　ＳＥＲＡＰＬＵＳから見えてきた生徒の課題に応じた「ＳＳＴ」を実施することで、場面に応じた行動や適切な対応ができるようになり、成功体験を積むことで、自己肯定感が高まり、進路選択の幅を広めることにより、将来の進路選択に向けて、学校生活が充実するだろう。

　２　「ＡＢＣ分析」で行動の背景にある原因が明確になり、それに基づいて計画を立て、支援することで行動が改善するだろう。

Ⅲ　研究テーマとの関わり

年度当初、クラスの生徒一人一人の社会性や対人関係スキルの実態を把握し、クラスでの配慮を必要とする生徒への支援に生かすために、全クラス対象でＳＥＲＡＰＬＵＳ（セラプラス）というアンケートを実施した。本クラスでは、自己肯定感・他者信頼感ともに低い生徒が10名、社会的スキルが低い生徒が13名で、その中の「表情を読み取ること」と「相手を思いやること」の両項目で苦手な生徒が共に８名（クラスの25％）おり、両項目に重なる生徒が５名であることが分かった。学校行事では、クラス単位で話合いを持つ際に、自分たちで意見をまとめたり、実行することが難しく、コミュニケーションが課題として見えてきた。

本校では、特別活動として年間３５時間（週に１時間）ＬＨＲ（ロングホームルーム、以下ＬＨＲとする）の時間が設けられており、年間計画を立て、ホームルームや学校の生活づくり、適応と成長及び健康安全、学業と進路の分野を学習している。本クラスでは、自己理解・他者理解を図り、生徒同士のコミュニケーションを活性化させる学級づくりを目的として、ＬＨＲ時に「ＳＳＴ」を、１学期に２回、２学期４回、３学期１回実施した。自分自身の在り方、生き方について学び、自己受容を図りながら自己を見つめなおすことで、自己理解を深めることができる。

文部科学省の「少年の問題行動等に関する調査研究協力者会議」(平成13年４月報告)では、児童生徒の問題行動の特徴について、背景や要因の一つとして、社会性や対人関係能力が十分に身に付いていないことが指摘されており、具体的な対応方策として、児童生徒の社会性を育む教育のためのプログラムの開発や体験活動の充実を図るための支援を挙げている。

社会性を身に付け、場面に応じた適切な行動がとれる支援の一つとして、「ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）」がある。「ＳＳＴ」は、社会生活技能訓練などとも呼ばれ、認知行動療法と社会学習理論を基盤にした支援方法の一つである。手順として①教唆②モデリング③リハーサル④フィードバック⑤般化があり、それを繰り返して定着を図る。

　１　生徒観

対象生徒は、１年生32名（男子13名　女子19名）で、ＳＥＲＡＰＬＵＳ（セラプラス）実施して、社会的スキルの習得度が低い生徒は40%（13名）、自己肯定感の低い生徒は63%（20名）であることが分かった。「表情を読み取る」ことと「相手を思いやる」ことが苦手な生徒が５名重なっており、対人関係やコミュニケーション能力に課題がある。提出物や授業の参加に積極的な生徒と消極的な生徒の２極化している。また、特定のグループでは仲が良いが、他のクラスメイトとコミュニケーションを図る機会が少ないため、クラスでの行事等ではうまく進めることができない。

２　題材観

コミュニケーションを促すカードゲームとして「ちょこっとチャット」を用いる。今回は、ステップ２として、異なる価値観や意見、感情を味わうことをねらいとする。感情や表現のカードのみを用いて、表情や言葉から相手の感情を読み取ることや相手の意見を受け入れることができる。

３　指導観

　４回目のちょこっとチャットなので、飽きさせないように、アイスブレイクを用いてクラスの雰囲気を盛り上げる。ゲームのルールを作成し、ラミネートして各グループに配布する。確認しながら、進めてもらう。グループに分かれ、一人がカードを引き、質問に答える。同じ質問を隣の人も答えていく。答えたくない場合は、自分の言葉で伝える。

Ⅳ　題材

　１　題材名　　　『「ちょこっとチャット」でコミュニケーション。』

　２　題材の目標　『「ちょこっとチャット」で感情理解し、相手の意見を受け入れよう。』

望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。

　３　授業計画

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時数 | １（５/11） | ２（５/25） | ３（10/26） | ４（11/９） | ５（11/16） | ６（12/５） | ７（１/６） | ８（１/25） |
| ねらい | 自己と他者の性格の特徴について知ろう。 | 自己と他者の学習スタイルの特徴について理解を深めよう。 | 自己と他者を見つめなおして、良いところを見つけよう。 | コミュニケーションを通して自己理解・他者理解を図ろう。 | 相手に伝わりやすい表現を学び、クラスの仲間へメッセージ（承認）伝え合い、自己肯定感を高めよう。 | 自分の知らない自分を見つけよう。 | 表情や言葉から相手の感情を読み取り、相手の意見を受け入れ、理解を深めよう。 | 表情や言葉から相手の感情を読み取り、相手の意見を受け入れ、理解を深めよう。 |
| 内容 | 内向・外向、ちょこっとチャット | 視覚型・聴覚型・体得型、ちょこっとチャット | ジョハリの窓、リフレーミング① | アドじゃん・ちょこっとチャット | ゴリラとゴジラ、Ｉメッセージ | ジョハリの窓、ジェンガで性格分析 | うなぎとウサギ、ちょこっとチャットでコミュニケーション | キャッチ、ちょこっとチャットでコミュニケーション |

Ⅴ　本時の目標

１　目標　表情や言葉から相手の感情を読み取り、相手の意見を受け入れることができる。

２　授業のねらい

（１）カードを用いて楽しみながら、相手の話を聴き、自分の話を聴いてもらうことでコミュニケーションをとることで、自己受容と他者受容を図る。

（２）仲の良いグループのメンバー以外の生徒同士コミュニケーションを取ることで、他の生徒を認め受容し、学級の中の帰属意識を高める。

３　検証の観点と方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証の観点 | 検証の方法 |
| １ | 相手の言葉や表情をよく読み取り、相手の気持ちを理解しようとしていたか | ちょこっとチャット、ワークシート |
| ２ | 感情や表情を読み取る力が育まれたか | ワークシート記述から考察 |
| ３ | 授業に興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいたか | ワークシート、行動チェックシートより考察 |

Ⅶ　　本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 備考 |
| 導入(15) | ・号令・アイスブレイク１　（キャッチ）□成績記録・グループ編成　５人１組（出席確認）・プリント・授業の目標を記入・本時の学習の流れ確認 | ・教室環境の整備（指示）・モデリング（ＣＴ知念・ＳＴ砂辺）・プリント配布・黒板へ書く・提示（表1）・デモ（ＣＴ知念・ＳＴ砂辺）　※あまりが出た場合ＳＴが入る | ・活動チェックシート・プロジェクタ |
| 展開(25) | ・アイスブレイク２　（トリックアート）○「ちょこっとチャット」でコミュニケーション・先生の例を見る　　　　　　【教示】【モデリング】①ステップ２ひとりの話し手が答えた後、他の人も同じ質問に答える。答えたくない場合は自分の言葉で話したくないことを伝える。聞き手は、相づちを打ったり、話し手の言葉を確認するように繰り返す。例:プリント参照②スペシャルカード・ちょこっとチャット　　　　　　　【リハーサル】・感想を書く　　　　　　　　　　　【フィードバック】・感想を共有する | プロジェクタで表示※見え方が異なることを理解させる・提示（表２）・（ＣＴ知念・ＳＴ砂辺）・プリントで確認相づちの打ち方　話し手の言葉を確認するような言葉・スペシャルカード（1～３選ぶ）１全員に質問２好きな歌（校歌）ワンフレーズ歌う３最近うれしかったこと・ちょこっとチャット配布声の大きさや消極的なグループには取組むよう促す | 説明は短く |
| まとめ(10) | ・感想を共有する・司会にまとめさせ、記録し、発表・振り返り記入・宿題 | ・司会がうまく進めないグループには、介入し促す。発表の声が小さいグループには寄り添い、内容を一緒に確認する。・感想などを記述する・明日一日生活の中で、①から③のポイントを使うことを意識させる。明日のＳＨＲで確認 |  |

題　材　名　　「ちょこっとチャット」で感情理解し、相手の意見を受け入れよう。

**ワークシート**　　　　　　　　　　　　　年　　組　　番号　　氏名（　　　　　　　　　　　）

　**アイスブレイク（　　　　　　　）**

勝敗を記録してみよう。

|  |  |
| --- | --- |
| 勝敗表 | * or ×
 |
| 1回戦 |  |
| 2回戦 |  |
| 3回戦 |  |
|  |  |

一緒に楽しもう

１　グループ編成　５名１組　　今日一緒に勉強する友達の名前

（　　　　　　）・（　　　　　　）・（　　　　　　）・（　　　　　　　）・（　　　　　　　）

授業の目標

　　　　表情や言葉から相手の（　感情　）を読み取り、相手の意見を受け入れる。

２　「ちょこっとチャット」STEP２

　**８種類の質問内容から、恋愛、感情・表現、幸福感について抜き出しました。**

**会話の中から表情を読み取り、相手の気持ちを理解して、意見を受け入れてみよう。**

①STEP2ルール　※同じ質問にみんなで答えよう

　**１　順番決め（誕生月が若い人から時計周り）**

**２　話し手は、カードを読んで質問に答える。**

**３　聞き手は、周りは相づちを打つ、相手の言葉を繰り返して確認する。**

**質　問　あなたのやってみたい仕事は何ですか？**

**話し手　私は、自分で設計して家を建てる建築の仕事をやってみたいです。**

 **聞き手　そうなんですね。**

**○○さんは、（　自分で設計して、家を建てる建築の仕事をやってみたい　）と考えているのですね。（自分で建てることを考えるとワクワクしますね。）△△という気持ちだったのですね。**

**※相手の話したことを繰り返す。プラス、気持ちを一言付け加える。**

**４　答えたくないときは自分の言葉で答えたくないことを伝える。**

**（答えるときは相手に伝わる声）**

**５　次の話し手は、最初のカードの質問をもう一度読み、自分で答える。**

　　②**スペシャルカード**



スペシャルカードの図

　スペシャルカードが出たら、黒板に掲示されている内容を確認して、三択の中から一つを選んでください。

１

２

３

ワークシート　　　　　　　　　　　　　年　　組　　番号　　氏名（　　　　　　　　　　　）

振り返り欄

①ちょこっとチャットで自分の気持ちを伝えての感想

②相手の気持ちを受け止めての気付いた事

自己評価　当てはまる箇所すべてにチェックしよう

（　１できなかった　２　あまりできなかった　３　できた　４　しっかりできた　）

**１ 話し手の話を聴いて、気持ちを理解することができた。　（　１　２　３　４　）**

**２ 相手の答えを繰り返して確認することができた。　　　　（　１　２　３　４　）**

**３ 自分の気持ちを伝えることができた。　　　　　　　　　（　１　２　３　４　）**

前回との比較をするので、全員お答えください。

チェックお願いします。（当てはまるものすべて○をつける）

（　１できなかった　２　あまりできなかった　３　できた　４　しっかりできた　）

**４ 相手の話を受け止め、理解することができた　　　　　（　１　２　３　４　）**

**５ 自分の意志を伝えることができた。　　　　　　　　　（　１　２　３　４　）**

**６ 自分と相手の意見の違いを認め、自己理解が深まった。 （　１　２　３　４　）**

①違い認める　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**（　１　２　３　４　）**

②他者理解　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**（　１　２　３　４　）**

③自己理解　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**（　１　２　３　４　）**

お疲れ様でした。いかがでしたか。４月に高校へ進学し10カ月が過ぎました。学校生活を振り返って、いろいろな気づきがあったと思います。自分自身について理解が深まり、考え方が変わってきた人もいるでしょう。自分なりに頑張ったと思ったことは、自分で認めましょう。また、もっと良くしたいと思うところがあれば、生活の中で、少しずつ変えてみましょう。２年生に上がるまでに、将来の自分の在り方、生き方を定めて、進路活動に取り組みましょう。先生も報告書の作成頑張ります。

感想をどうぞ

【教師のコメント】

　　　年　　組　　番号　　氏名（　　　　　　　　　　　）

**宿　題　会話のポイントを参考に、日常の会話の中で、相手の言葉を繰り返して確認し、相手の感情を理解しよう。**

**会話のポイント**

**質　問　「あなたのやってみたい仕事は何ですか？」**

**話し手　私は、自分で設計して家を建てる建築の仕事をやってみたいです。**

 **聞き手　そうなんですね。○○さんは、（　自分で設計して、家を建てる建築の仕事をやってみたい　）と考えているのですね。**

**※相手の話したことを繰り返す。余裕があれば、一言付け加える。**

|  |
| --- |
| １　場面や誰とどのようにやったか書いてみよう　　例：アルバイト先で店長と休憩時間に、雑談し、年末年始の過ごし方について話を聞いた。相手の話を繰り返し話すことで、話の内容を確認でき、会話が弾んだ。　　　○　２　やってみてどのように感じたか　あなたが気づいたこと。　　　○ |

提出　1/26(木)　帰りのSHR　担任　砂辺先生へ

　　　年　　組　　番号　　氏名（　　　　　　　　　　　）

**宿　題　会話のポイントを参考に、日常の会話の中で、相手の言葉を繰り返して確認し、相手の感情を理解しよう。**

**会話のポイント**

**質　問　「あなたのやってみたい仕事は何ですか？」**

**話し手　私は、自分で設計して家を建てる建築の仕事をやってみたいです。**

 **聞き手　そうなんですね。○○さんは、（　自分で設計して、家を建てる建築の仕事をやってみたい　）と考えているのですね。**

**※相手の話したことを繰り返す。余裕があれば、一言付け加える。**

|  |
| --- |
| １　場面や誰とどのようにやったか書いてみよう　　例：アルバイト先で店長と休憩時間に、雑談し、年末年始の過ごし方について話を聞いた。相手の話を繰り返し話すことで、話の内容を確認でき、会話が弾んだ。　　　○　　　２　やってみてどのように感じたか　あなたが気づいたこと。　　　○ |

提出　1/26(木)　帰りのSHR　担任　砂辺先生へ

評価シート

本日はお忙しい中、参観してくださり、ありがとうございました。今後の研究の反省として活用したいと考えております。授業に対する評価や気になったことについて、ご指摘よろしく願いします。

授業者への評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 評価項目【◎適切　○やや適切、△改善が必要】 | 評価 | 備考 |
| ① | 本時の目標設定は適切だったか |  |  |
| ② | 適切な言葉かけや支援はできたか |  |  |
| ③ | 場面設定および授業の流れは適切であったか |  |  |
| ④ | 生徒への支援は適切であったか |  |  |
| ⑤ | 具体的で簡潔な指示や説明ができていたか |  |  |
| ⑥ | 授業の展開は適切であったか |  |  |
| ⑦ | 指導形態（グループ活動）は適切であったか |  |  |
| ⑧ | 生徒への支援は適切であったか（タイミング、言葉かけ、動き等） |  |  |
| ⑨ | 時間の配分は適切であったか |  |  |
| ⑩ | 授業での教師間連携は適切であったか |  |  |

ご協力ありがとうございました。入らない場合は、裏面にも記入お願いします。

提出は、知念か１－４砂辺まで

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 備考 |
| 導入(15) | ・号令・アイスブレイク１　（キャッチ）□成績記録・グループ編成　５人１組（出席確認）・プリント・授業の目標を記入・本時の学習の流れ確認 | ・教室環境の整備（指示）・モデリング（ＣＴ知念・ＳＴ砂辺）・プリント配布・黒板へ書く・提示（表1）・デモ（ＣＴ知念・ＳＴ砂辺）　※あまりが出た場合ＳＴが入る | ・活動チェックシート・プロジェクタ |
| 展開(25) | ・アイスブレイク２　（トリックアート）○「ちょこっとチャット」でコミュニケーション・先生の例を見る　　　　　　【教示】【モデリング】①ステップ２ひとりの話し手が答えた後、他の人も同じ質問に答える。答えたくない場合は自分の言葉で話したくないことを伝える。聞き手は、相づちを打ったり、話し手の言葉を確認するように繰り返す。例:プリント参照②スペシャルカード・ちょこっとチャット　　　　　　　【リハーサル】・感想を書く　　　　　　　　　　　【フィードバック】・感想を共有する | プロジェクタで表示※見え方が異なることを理解させる・提示（表２）・（ＣＴ知念・ＳＴ砂辺）・プリントで確認相づちの打ち方　話し手の言葉を確認するような言葉・スペシャルカード（1～３選ぶ）１全員に質問２好きな歌（校歌）ワンフレーズ歌う３最近うれしかったこと・ちょこっとチャット配布声の大きさや消極的なグループには取組むよう促す | 説明は短く |
| まとめ(10) | ・感想を共有する・司会にまとめさせ、記録し、発表・振り返り記入・宿題 | ・司会がうまく進めないグループには、介入し促す。発表の声が小さいグループには寄り添い、内容を一緒に確認する。・感想などを記述する・明日一日生活の中で、①から③のポイントを使うことを意識させる。明日のＳＨＲで確認 |  |

**アイスブレイクルール**

ファシリテーターの声かけ
【１】右手で人差し指を立てる。左手は筒を作ってください。
【２】右隣の人の筒に、指を上から入れてください。
【３】私が『キャッチ』という言葉を言ったら、右手は上に逃げてください。左手は逃がさないように掴んでください。
【４】ただし、あまり手をギュッと握ってしまうと、怪我をしてしまうことがあるので、優しく握ってあげてください。
【５】ではいきます。キャッチ！